

サステイナビリティ入門

(Introduction to Sustainable Society)

2020年度	1年次	前期	金曜・1コマ	2単位
担 当 者	宮本 貴朗, 大塚 耕司, 牧岡 省吾, 山本 由美子			
授 業 目 標 (達 成 目 標)	<p>現代社会におけるサステイナビリティの重要性について理解させるとともに、持続的に自然と人・人と人が共に生きるための基礎となる環境システムについて、自然科学的、社会科学的、人間科学的側面から理解させる。また、科学技術など学問の発展が環境や社会へ与える影響について考え、専門家としての責任を自覚できる能力を身につけさせることを目標とする。</p> <p>具体的には、以下の能力を身につけることを達成目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能社会を実現するための課題について、自然の観点から説明できること。 2. 持続可能社会を実現するための課題について、情報の観点から説明できること。 3. 持続可能社会を実現するための課題について、社会の観点から説明できること。 4. 持続可能社会を実現するための課題について、人間の観点から説明できること。 5. 研究公正に関する基本的な考え方について説明できること。 			
授 業 概 要	<p>現代社会におけるサステイナビリティの重要性について、自然科学、情報科学、社会科学、人間科学の各側面から講義する。さらに、研究公正に関する基本的な考え方について講義する。</p> <p><授業計画 (予定)></p> <p>第1回, ヒトに至る進化の道筋 (担当: 牧岡省吾) 第2回, ヒトはなぜ社会をつくることのできるのか (担当: 牧岡省吾) 第3回, 資源開発と環境破壊の歴史 (担当: 大塚耕司) 第4回, 科学技術の発達とエネルギー問題 (担当: 大塚耕司) 第5回, サステイナビリティをめぐる世界の動き (担当: 大塚耕司) 第6回, 再生可能エネルギーに関する草の根活動実践例 担当: 調整中 第7回, 日本のエネルギー事情 (担当: 横山良平) 第8回, 生活水準の向上と環境保護の衝突について考える. (担当: ゲストスピーカー興克樹. 奄美海洋生物研究会会長) 第9回, 現代の生命科学技術 (担当: 山本由美子) 第10回, 大学生と研究公正の関係およびその重要性を概説する. (担当: 山本由美子) 第11回, 持続可能性を考えるさいになぜジェンダーの視点が重要なのか. (担当: 内藤葉子) 第12回, サイバーテロ (担当: 宮本貴朗) 第13回, ヒトの暴力性 (担当: 牧岡省吾) 第14回, ヒトはなぜ誤るのか (担当: 牧岡省吾) 第15回, 人工知能の可能性 (担当: 牧岡省吾)</p>			
授業時間外の学習 (準備学習等について)	毎回の授業で、次回の授業までに調べておくべき課題を示す。これと併せて、各回の授業内容について復習しておくこと。			
参 考 書	ドネラ・メドウズ他、枝廣淳子訳『成長の限界 人類の選択』2005年、ダイヤモンド社ニッキー・チェンバース他、五頭美知訳『エコロジカル・フットプリントの活用』2005年、合同出版			
成 績 評 価	<p>授業目標 (達成目標) 1～5の達成度で成績評価を行う。単位を修得するためには、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能社会を実現するための課題について、自然の観点から、授業で扱った概念を1つ以上用いて説明できること。 2. 持続可能社会を実現するための課題について、情報の観点から、授業で扱った概念を1つ以上用いて説明できること。 3. 持続可能社会を実現するための課題について、社会の観点から、授業で扱った概念を1つ以上用いて説明できること。 4. 持続可能社会を実現するための課題について、人間の観点から、授業で扱った概念を1つ以上用いて説明できること。 5. 研究公正に関する基本的な考え方について、授業で扱った概念の半分以上を説明できること。 <p>上記5点のうち4点以上を達成することが求められる。授業中に行う小テストと提出課題により総合的に評価する。</p>			
備 考				